

# 令和6年度 兵庫県立阪神昆陽高等学校評価アンケート結果(生徒・保護者)

1 実施期間 令和6年12月24日(火)~30日(月) 11日間

2 回答対象 ①生徒322名/497名(64.8%) 前年度(66.0%)  
②保護者186/398名(46.7%) 前年度(26.0%) ※リマインド前102(25.6%)

3 評価段階 4:十分できている 3:おおむねできている 2:あまりできていない 1:できていない

4 総合評価 A:達成できている (3.5<A≤4.0)  
B:できている (3.0<B≤3.4)  
C:努力を要する (1.0<C≤2.9)

区分	評価の観点	生徒			保護者		
		R5	R6	評価	R5	R6	評価
①	教師は、学習活動のねらいを具体的に説明している。	3.5	3.5 -	A	3.2	3.2 -	B
②	教師は、いじめの未然防止やいじめが起きた時に適切に対応している。	3.3	3.5 ↑	A	3.2	3.3 ↑	B
③	教師は、授業で不必要な時にスマホを触っている生徒に対し、粘り強く指導している。	3.3	3.3 -	B	3.0	3.2 ↑	B
④	教師は、生徒の理解に合わせた授業を行っている。	3.4	3.4 -	B	3.4	3.3 ↓	B
⑤	困ったときに相談できるような体制が学校にある。	3.4	3.4 -	B	3.3	3.2 ↓	B
⑥	学校は、地域等の外部人材を積極的に講師に招き、様々な視点から学ぶ機会を提供している。	3.5	3.5 -	A	3.4	3.3 ↓	B
⑦	学校は、授業や行事などで、特別支援学校との共同の学びの場を設けている。	3.5	3.5 -	A	3.3	3.6 ↑	A
⑧	学校は、両校の授業や行事などの取組について、ホームページなどを通じて発信している。	3.4	3.6 ↑	A	3.2	3.5 ↑	A
⑨	学校は、生徒が意欲的になるような授業の工夫や研究に努めている。	3.3	3.4 ↑	B	3.2	3.1 ↓	B
⑩	部活動の顧問は、生徒の主体性、自主性を尊重した部活動の運営を心がけている。	3.3	3.5 ↑	A	3.3	3.3 -	B
⑪	教師は、生徒の話を丁寧に聞くとともに、生徒を否定したり、自説を押しつけたりしない。	3.3	3.5 ↑	A	3.1	3.1 -	B
⑫	教師は、生徒が考え行動する機会を作り、働きかけている。	3.4	3.5 ↑	A	3.2	3.3 ↑	B
⑬	学校は、生徒会活動の取組を支援したり、生徒会役員以外の生徒を啓発したりしている。	3.3	3.5 ↑	A	3.1	3.2 ↑	B
⑭	学校は、地域貢献やボランティア活動をする生徒の取組を支援したり、他の生徒を啓発したりしている。	3.4	3.5 ↑	A	3.1	3.2 ↑	B
⑮	学校は、保護者と連携し、教育活動を行っている。				3.2	3.2 -	B

兵庫県立阪神昆陽高等学校 令和6年度 行動・実践目標評価

理念

阪神昆陽の両校がともに助け合って生きていくことを実践的に学ぶ機会を設定し、ふれあいを通じた豊かな人間性を育むとともに、社会におけるノーマライゼーションの理念を進展するための礎となる学校をめざす。

教育目標

- A 生徒の興味・関心や、多様な学習ニーズに応じて、主体的に学ぶことができる多部制単位制高等学校として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む。
- B 人権尊重の理念に対する理解を深め、生命の尊厳を基盤に、自他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に主体的に取り組む実践力を育成する。
- C 阪神昆陽特別支援学校が同一敷地に設置されたメリットを最大限に生かして交流及び共同学習を推進し、ふれあいを通じた豊かな人間性を育むとともに、社会におけるノーマライゼーションの理念を進展する礎となる学校をめざす。また、両校の実践を県内のみならず全国へ発信する。
- D 学校評議員制度や高校生ふるさと貢献活動事業、特別支援学校交流・体験チャレンジ事業などを活用して、伊丹市池尻地区や尼崎市西昆陽地区など、学校周辺の地域と連携した教育活動を推進し、地域に開かれた、地域に愛される学校をめざす。
- E 「教育は人なり」という言葉があるように、両校の教職員は、教育の専門家としての使命感と高い倫理性を保持し、豊かな人間性の涵養に努める。また、専門性と実践的指導力の向上や、社会の変化に対応した教育観を培うことをめざして、研究と修養に努める。

評価点：十分できている=4、おおむねできている=3、あまりできていない=2、できていない=1  
 総合評価：A：達成できている（3.5<A≤4.0） B：できている（3.0<B≤3.4） C：不十分である（1.0<C≤2.9）

\*行動指標として複数の具体例を示しています。その一つ一つに当てはまるか否かではなく、指標を参考にして実践目標に対する自己評価を総合的にご判断ください。

	評価の観点	実践目標	No.	行動指標	関係する教育目標	R5		R6		増減
I 理念・ 経営 方針・ 重点 方針	円滑な学校運営	学校の理念、及び基本方針を理解している。	①	・自分の業務を、学校の理念・方針の中に位置づけることができている。 ・学校の理念・方針をふまえたうえで、学習活動のねらいを生徒に具体的に説明できる。	A、B C、D E	3.2	B	3.1	B	-0.1
		自分が所属している部・年次の経営目標を理解している。	②	・自分の業務を、部・年次の目標・方針の中に位置づけることができている。 ・部・年次の目標をふまえたうえで、学習活動のねらいを生徒に具体的に説明できる。	A、B C、D E	3.3	B	3.1	B	-0.2
	勤務時間の適正化・ 教員としての資質向上	働きがいのある学校づくりを実践している。	③	・生徒と向き合う時間を確保するために、業務改善に取り組み、メリハリある勤務に努めている。	E	3.2	B	3.0	C	-0.2
		人間性と教育観の涵養に努め、教員としての資質向上を図っている。	④	・専門性を高める研究、ボランティア、読書、スポーツ、旅行など、人間性を豊かにし、資質向上につながる時間を作っている。	E	3.2	B	3.0	B	-0.2
	危機管理体制の整備	本校の危機管理体制、いじめ防止基本方針を理解している。	⑤	・危機管理マニュアルが適切に保管され、自分の関係する部分はおおむね理解できている。 ・いじめの未然防止やいじめが認知された際に、基本方針に沿った対応ができる。 ・様々な研修を通じて学んだことが、生徒・保護者対応等の初期対応に生かされている。	B、D	3.1	B	3.1	B	0.0
		日頃より関係機関との連携を密にし、様々な危機に対応できる体制を整えている。	⑥	・コーディネーター・キャンパスカウンセラー・外部関係機関（警察・消防・病院・S W・福祉支援員等）との連携ができる。	A、C	3.3	B	3.4	B	0.1

	評価の観点	実践目標	No.	行動指標	関係する教育目標	R5		R6		増減	
II 魅力ある学校・特色ある学校への取組	授業	授業規律の確保に努めている。	落ち着いた授業を行うため、ルールやマナーを生徒に周知徹底させる。	①	授業で不必要な時に、スマホを触っている生徒に対してねばり強く指導を行うことを重点とする。	A、E	3.3	B	3.6	B	0.3
		生徒の力を多面的に評価することに努めている	全科目定期考査廃止による評価について分析し、評価方法を改善する。	②	・評価の観点や評価基準の改善を進め、生徒に示すとともに、中学校教員にも説明をしている。	A、E	2.8	C	2.8	C	0.0
		授業力の向上に努めている。	・生徒の興味関心を引き出す協働的な学びや、個々の進路実現のための個別最適な授業を行う。	③	・授業の中で、生徒の理解度や進路目標を踏まえた個別最適な学びや、協働的な活動（グループワークや話し合い）を行っている。	A、C、E	3.2	B	3.0	C	-0.2
	通級・レジリエンス	特別な支援を要する生徒に対する本校の取り組みを理解している。	通級による指導、自衛防止の取り組み等を理解し、実践する。	④	・高校における特別な支援の必要性を理解し、研修を活用している。 ・特別支援学校と連携し、困難さを感じている生徒に対する支援に取り組んでいる。	A、B、C、D	3.0	B	2.9	C	-0.1
	特別支援学校との連携	学校設定教科「共生社会と人間」を適切に実施している。	ノーマライゼーションの進展に寄与する人間観・社会観を醸成する。	⑤	・特別支援学校、地域の人材を積極的に講師に招き、様々な視点から学ぶ機会を設定している。 ・外部機関と連携して授業を進め、実社会で学ぶ機会を設定している。	A、B、C、D	2.9	C	2.8	C	-0.1
		交流及び共同学習を適切に実施している。	授業、行事等、学校教育活動の様々な場面で、両校の生徒がともに活動する機会を設定する。	⑥	・共同の学習活動に向け、両校の担当者が定期的な打ち合わせ、情報共有を行っている。	A、C、D	3.0	B	2.9	B	-0.1
		高校・特別支援学校両校の取り組みを発信している。	両校の実践を県内のみならず全国へ発信する。	⑦	・両校の実践についてHPで情報を更新し、保護者、地域へ情報提供している。 ・SPIRIT等の記録を作成し配布する。 ・各説明会等で、両校の取り組みの内容を紹介する。	A、C、D	3.1	B	3.0	B	-0.1
III 自尊感情の醸成	自己肯定感	カウンセリングマインドの視点を活かす指導で生徒や保護者対応を行っている。	他の教員と本校の生徒指導方針を共有し、組織的に指導に当たる。	①	・「受容」「傾聴」「共感」により、生徒・保護者の話を丁寧に聞いている。 ・生徒の人権を尊重し、否定や自説の押しつをしないように意識している。	A、C	3.5	A	3.3	B	-0.2
		生徒が自分の行動に責任を持つような取組を行っている。	生徒が自ら考え、場面や状況に応じた行動を選択できるように働きかけている。	②	・生徒が自ら考え、行動するよう働きかけ、「やればできる」が体感できる機会を作っている。	A、C	3.3	B	3.2	B	-0.1
	自己効力感	生徒の多様な能力・適正・興味に即し、自ら学ぶ学習意欲を喚起している。	体系的なキャリア教育を進め生徒の進路意識を高めるとともに、必要に応じて補習、個別指導等を実施する。	③	・年次、進路指導部や部顧問とも生徒情報を共有し指導にあっている。 ・生徒が意欲的になるような授業の工夫や研究に努めている。	A、C	3.3	B	3.3	C	0.0
		部活動を充実させようと努力している。	部活動の意義を理解し、生徒の活動を支援する。	④	・「いきいき運動部活動(4訂版)」をふまえて活動をおこなっている。 ・生徒の主体性、自主性を尊重した部運営を心掛けている。	A、C	3.3	B	3.1	C	-0.2
	自己有用感	生徒の自己有用感を高める諸活動の内容を理解し、その取り組みを支援する。	生徒会活動を理解し、その活動を支援する。	⑤	生徒会活動について ・活動内容を理解している。 ・当該生徒の取り組みを支援したり、他の生徒を啓発したりしている。	A、D	2.8	C	2.8	C	0.0
		生徒の自己有用感を高める諸活動の内容を理解し、その取り組みを支援する。	高校生ふるさと地域貢献活動、ボランティア活動等を理解し、その活動を支援する。	⑥	地域貢献・ボランティア活動等について ・活動内容を理解している。 ・当該生徒の取り組みを支援したり、他の生徒を啓発したりしている。	A、D	2.8	C	2.7	C	-0.1

(アンケートの概要)

- 1 実施期間 令和7年1月6日(月)～2月2日(金) 25日間
- 2 回答対象 教職員 62名/62名 (100%)

## 令和6年度 学校評価について

県立阪神昆陽高等学校

### ■今年度について

本校の教育目標に基づき、令和3年度から生徒・保護者ともに継続してアンケート調査を実施しており、令和5年度からはQRコードによるWeb回答を導入した。これにより、特に保護者の回答率は2.0%から26.0%へ大幅に上昇した。さらに今年度は一斉メール配信で案内を通知したうえ、リマインドのメールも送付した。これにより、保護者からの回答率は46.7%と大幅に改善した。

### ■生徒・保護者アンケートについて

生徒への質問は14項目あり、令和4年は全ての項目がB評価であったが、令和5年は3項目がA評価に、さらに令和6年は10項目がA評価となった。保護者への質問は15項目あり、令和5年はA評価が全くなかったが、令和6年では2項目でA評価となった。昨年と比較すると、生徒の回答では8項目で、保護者の回答では7項目で評価が上昇した。

生徒・保護者ともにA評価だったのは、「特別支援学校との共同の学び」と「ホームページなどの情報発信」であった。本校の特色ある教育活動のひとつである共同の学びを充実させ、積極的に発信していることによって、共同の学びの意義が周知されていることがうかがえる。

生徒・保護者ともにB評価だったのは、「授業でのスマホに対する指導」、「生徒の理解に合わせた授業」、「相談体制」、「意欲的になるような授業の工夫や研究」、の4項目であった。特に授業内容に関する2項目は特に値が低く、授業改善が求められていることが示唆された。また、スマホ使用については引き続き粘り強く指導するとともに、困った時の相談体制の強化を図る必要があるだろう。

### ■教職員アンケートについて

教職員を対象に実施したアンケート調査には19の評価項目が含まれている。このうち、令和5年度から値が上昇したのは、「関係機関との連携」と「授業規律の確保」の2項目のみで、全13項目が下降した。特に、大幅な低下がみられたのは、1)「自分が所属している部・年次の経営目標を理解している」、2)「働きがいのある学校づくりを実践している」、3)「人間性と教育観の滋養に努め、教員としての資質向上を図っている」、4)「授業力の向上に努めている」、5)「共生社会と人間」を適切に実施している」、6)「カウンセリングマインドの視点を生かす指導で生徒や保護者対応を行っている」、7)「部活動を充実させようと努力している」、という7項目であった。このうち、授業改善と相談体制の強化については、生徒・保護者アンケートでも低評価だった項目であり、本校の課題であることが裏付けられた。この課題を解消するには、多忙感の解消と生徒とかかわる時間を確保するほか、校内外の研修を通じて教員の資質向上を図る必要がある。

以上の教職員アンケートの結果を分析するにあたり、管理職1名、部主任・年次主任4名、中堅キーパーソン2名、若手キーパーソン2名に対するフォローアップインタビューを実施した。その結果、公開授業週間の仕組みを改変する等により授業改善に取り組む、学校経営方針の具体化を図り職員に浸透させる、職員の多忙感を軽減させる、といった改善策を見出した。

学校評議員からは、総合的な探究の時間を推進することで、学校全体の授業改善に生かすこと、学校の課題解決に生徒が関与する機会や授業の中で自己決定する場面を増やすこと、本校生徒にとっては特に興味関心を引き立てる授業が重要である等の助言をいただいた。